

(日置郡伊集院町大田字上山路山)

位置と環境

本遺跡は、標高約130mのシラス台地上に位置している。現地形は舌状台地の端にあたり、平坦面から続く緩斜面と、谷頭を含んだかなり急な斜面からなる。

調査の経緯

建設省（現国土交通省）九州建設局鹿児島国道工事事務所が、南九州西回り自動車道路の建設を計画し、計画路線内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育委員会文化課に照会した。本遺跡については平成3年（1991年）6月に分布調査が行われ、遺物の散布が認められたため、平成9年2月に確認調査を行い、平成9年度に本調査を行った。

遺構と遺物

本遺跡は、旧石器時代、縄文時代早期・後期、古墳時代の複合遺跡である。

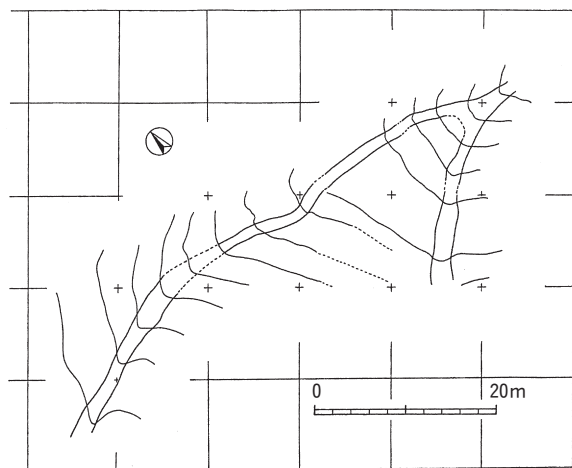
後期旧石器時代の遺物は、台地上の平坦部で黒曜石の剥片等が90点ほどが出土した。

縄文時代後期と思われる土器片が出土している。

古墳時代の遺物は、平坦部を中心に成川式土器等が出土した。

主体をなす時代は、縄文時代早期で、遺構は、調理を行ったと思われる集石3基、道跡2条を検出した。

本遺跡は、地元の人々が「やまんじやま」と呼ぶ



第2図 上山路山遺跡検出の道跡



第1図 上山路山遺跡の位置

場所に位置しており、明治の頃までは台地下の田から馬の背に米などを載せて通る道が存在し、台地下の湧水点を利用していたという。今回の調査範囲が斜面を中心とするという地形的な要素と、住居跡などの遺構が検出できなかったという点から、道跡は集落外の谷頭から谷を降り湧水地点に至る途中の部分に当たる可能性がある。

遺物は、岩本式土器・前平式土器・吉田式土器が出土している。岩本式土器・前平式土器は、急な斜面の部分から大量に出土しており、土器捨て場などであった可能性が考えられる。

岩本式土器には、赤色顔料で内面の口縁部付近を着色した土器片が数点出土しており、口縁部付近に隆帯と考えられる貼り付けがみられる土器片が1点出土している。文様構成には、さまざまなバリエーションがみられる。

特徴

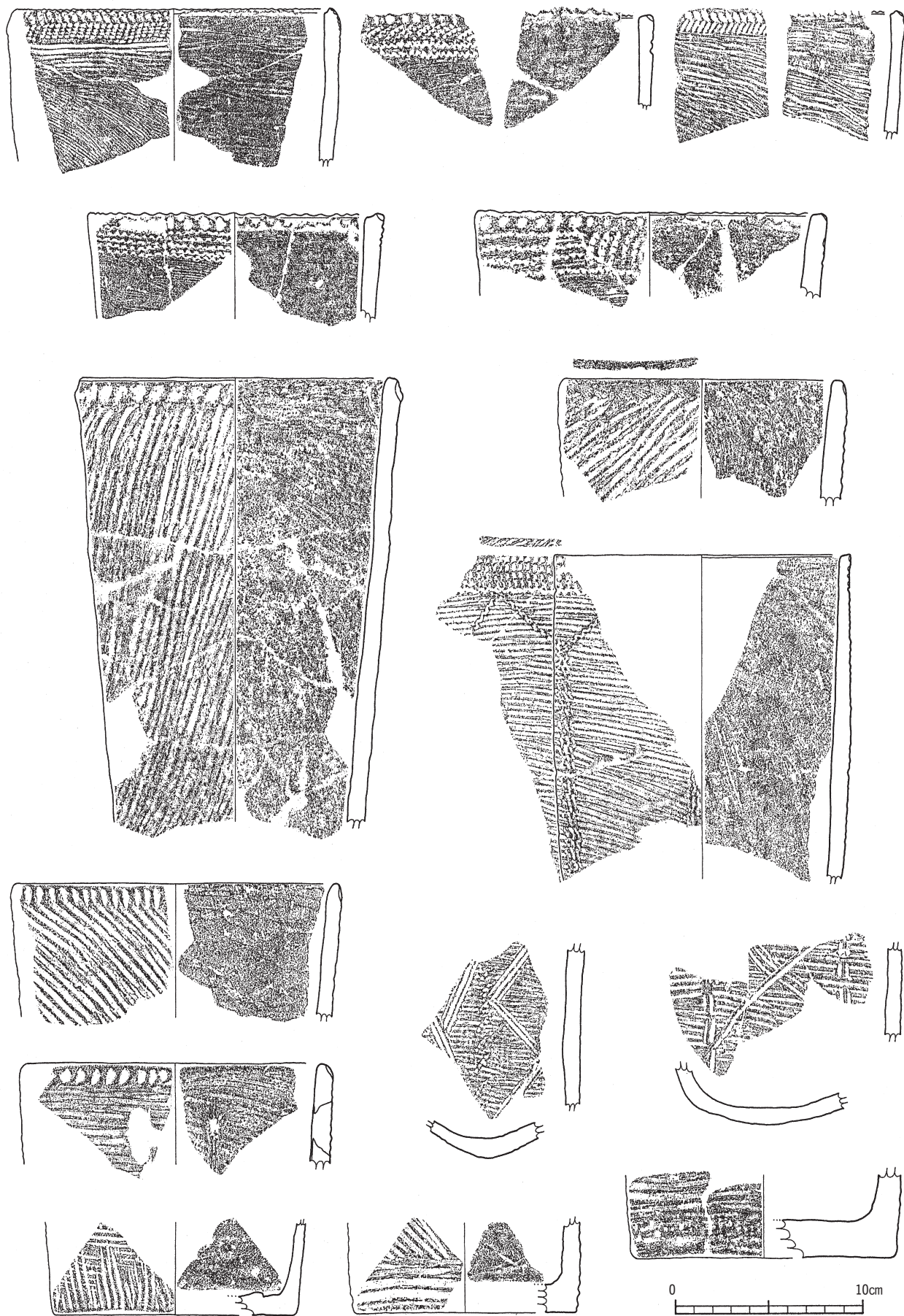
本遺跡においては、縄文時代早期の集落はおそらく台地の中心部よりの調査区隣接地に存在していたと思われる。集落から、谷を下る道の跡と、集落の周辺部にあった土器捨て場が、今回の調査区内に存在していたといえる。

資料の所在

出土遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管している。

参考文献

鹿児島県立埋蔵文化財センター1998「上山路山遺跡」〔南九州西回り自動車道鹿児島道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査事業報告書〕（寺原徹）



第3図 岩本式土器・前平式土器